

京都 教育センター通信

【発行】京都教育センター事務局
〒606-8397

京都市左京区聖護院川原町4-13

京都府教育会館3階

TEL & FAX 075-752-1081

ホームページ <http://www.kyoto-kyoiku.com/>

メール: kyoto-kyoiku@center.email.ne.jp

敗戦後八十年を考える

4月から運営委員になりました毛戸祐司けとゆうじです。山城園

の府立高校で社会科学を教えて5校め、四十二年目です。

敗戦後八十年は、日本が対外戦争をしなかった八十年でもあります。あの戦争を体験された方々にとって、それがどれほど悲惨なものだったか、その体験を抱えながら「二度とあんなことはしてはならない」と心に誓い、そのために行動されてきた事に、戦後に生まれた私たちは守られてきたのだと思います。（朝鮮戦争やベトナム戦争、テロとの戦いでも、日本国内の米軍基地が使われ、その戦争に多くの日本人が協力した事も忘れてはいけません）

体験された方々に、忘れることはできないけど、つらくて思い出したくない事を語っていただくことを重視してきた、これまでのような平和教育を続けることはできなくなってきました。戦争責任についても、今だからこそとりあげることができるようになっている面もあるはずです。

台湾や朝鮮などの植民地を喪失してから八十年たちました。残念ながらそれは、植民地を支配していた記憶を喪失した八十年でもあります。今イスラエルがガザの人々に向けているのと同じような暴力を、日本が台湾の先住民の人々に繰り返し加えていた事を、最近学びま

毛戸祐司

京都教育センター運営委員



した。ガザのニュースを見て、百年前にそこで起こった事と結びつけている人が、台湾にはきつといるでしょう。「台湾の人たちは韓国・朝鮮の人たちよりも親日的」といった見方は皮相的だと思います。また、今台湾では、そうした先住民の近現代史を、それを抜きにしては、われわれ台湾人の歴史を考えることはできないものとして位置づけようとする動きが進んでいることも知りました。沖縄やアイヌの人々の近現代史を、それを抜きにしては、われわれ日本人の歴史を考えることはできないと位置づけることはまだ充分にはできていないのではないのでしょうか。

一人の人間にとって八十年という年月はかなり長いのですが、忘れてたくても忘れられない真実が、昨日の事のように思い出され、今でも涙があふれてくるという体験をされた方々の事が、新聞やテレビで連日報道されています。今ガザで飢えている子どもたちが生き延びることができれば、きっと八十年後は彼らの真実を語るのでしょう。さまざまな立場からさまざまな見方ができる事を理解し、今の自分とは異なる立場から異なる見方をする力も必要です。しかし否定することができない、否定してはならない真実は存在していて、真実により近い側に立とうと努力する姿勢が、もっと必要です。それを生徒たちに伝えていきたいと思えます。

「京都高校生平和ゼミナール」の取り組み ―全国の高校生と一緒に取り組んだ東京での平和の活動―

京都高校生平和ゼミナール 山口若葉(高校2年) 山本智希(高校1年) 坂本木太郎(高校1年)



2025年3月26・27日に全国の平和ゼミナールの高校生が東京に集まり、核兵器廃絶を求める運動に取り組みました。これに京都から3名の中高校生が参加しました。以下は参加したメンバーによる記録です。

取り組んだ行動は次のようなものです。多くの行動に参加し、資料館などを見学しました。

3月26日 第五福竜丸展示館の見学、核禁条約の批准を求める署名提出(外務省で事務官と懇談)、各党国会議員との懇談(自民・国民・立憲・共産・れいわ・社民党)、宿舍での学習交流会

27日 ロシア大使館・イスラエル大使館近くでの抗議要請行動、渋谷でのピースパレード、感想交流会

「第五福竜丸展示館」の見学

署名提出行動の前に夢の島にある「第五福竜丸展示館」を見学しました(京都の独自行動)。当時起こった水爆実験被害や乗組員の人たちの症状、死の灰などの展示が沢山あって、被ばく者の辛い経験が詰め込まれていて、そこにいるだけでも正直胸が痛くなりました。しかし、中学校の時の授業では第五福竜丸に関してこうした事実をしっかりと学ばなかったので、

展示館に足を運んで実際に肌で当時の被害を学ぶというのは大切なことだと思いました。

外務省で核禁条約批准を求める高校生署名を提出し、外務事務官と懇談する

外務省前の地下鉄「霞が関」駅出口に続々と各地の高校生が集まってきました。同じ核兵器廃絶という志を持つ同世代がこんなにたくさんいると思うと勇気づけられます。琉球新報やしんぶん赤旗、全国紙の記者が取材に来ていました。デモ行進をして外務省へ入りました。外務省からは軍縮不拡散・科学部軍備管理軍縮課の首席事務次官の方が署名を受けとり、「この署名の重みを受け止める」と言われました。

署名提出のあと、事務官に質問する機会がありました。静岡から「日本政府は広島・長崎の被爆、ビキニ環礁の核被災について、アメリカに謝罪を求めないのはなぜ」と質問し、「アメリカは日本にとって最大の同盟国なので、同盟関係をそこなうことはできない」と述べました。京都から「NPTで締約国に対して誠実に核軍縮交渉を行うことを約束する」とあるのに、アメリカの核による核抑止を主張するのはNPT締約国として矛盾するものではないか」と質問し、「厳しい安全保障環境のもとで核抑止は不可欠である」その一方で「核兵器のない社

会を目指すこととは矛盾しない」と言われました。愛知から「なぜ核禁条約の締約国会議にオプザーバー参加しないのか」と質問し、「国連の場で核軍縮への取り組みを行っている。オプ参加しなかったのは日本の核抑止政策について誤ったメッセージを与え、平和と安全の確保に支障をきたすから」と述べました。沖縄からは「沖縄で米軍・自衛隊の基地の拡大が強引に進められているが、辺野古弾薬庫には何が保管されているのか」との質問に対し、「その問題に対して担当しているわけではないのでお答えすることは差し控える」と述べました。ほかにもさまざまな質問があり、回答もありましたが、結局は結論ありきの日米同盟核抑止論に固着する回答でした。

最後に、事務官は「核兵器のない世界に向けた」国際賢人会議という政府が行っている会議を紹介されました。この会議の提言は「全ての国は、核兵器への依存から脱却するために努力し続けなければならない。核抑止が安全保障の最終的な形態である」とこれまで示されたことはなく、またこれからもそうあってはならない」とあり、政府主催の会議でさえ核抑止論を否定しています。やっぱり核抑止論では平和を守れないと思います。

ロシア大使館近くでの抗議要請行動

大使館の近くまで行って、みんなで大使館に向かってロシアのウクライナ侵略に対して声を上げました。相手の顔は見えないけれど、本当に聞いてくれてるかわからないけれど、「戦争をやめてほしい。核を広げること、そしてその被害を受ける人々をもうこれ以上増やさないでほしい。平和な世界を」という私たち学生の思いをのせて訴えることができたと感じました。

残念なのは警察に規制され、ロシア大使館の前までは行けなかったことでした。「どうして近くに行き願いを伝えることができないのだろうか」と悲しくなりました。ウクライナに対して、本当に犯してはならないことを堂々として、世界ではそのせいで苦しんでいる人がいるのに、私たちがロシア大使館の前に行くことは許されないのが本当に怒りまで感じました。今すぐにも、ロシアが侵略を止めれば平和な世界へ近づけることができるし、私たちの日本も 軍費なんて上げていかないと思います。

渋谷でのピースパレード

パレードの出発地点の明治通り公園へと移動しました。渋谷の街を一周し、公園へ戻るルートで行いました。皆で団結し、大きな声でシュプレヒコールをおこないながら歩きました。私たちの声を渋谷中に届ける事ができたと思います。また、コールを聞いたり、横断幕などのメッセージを見た通行中の信号待ちの方々や手を振ったり、グットポーズなどで反応してくれました。歩きながら高校生がマイクを握り、各地特有の事情も入

れて日本の核への対応を批判し、核兵器禁止条約に署名・批准へという想いを伝えました。京都からは核兵器を「悪魔の武器」と言い、核の危険性を人道的観点で話し、その後、被爆80年の今年、締約国会議に日本が参加しなかった事を批判しました。各自色々なアピールを行いました。渋谷パレードを行い、この2日でのどのくらい平ゼミとしての団結が高まったのかを実感できました。コールでの一体感のあるあの声は一生忘れないと思います。浴道で老若男女、国を問わず沢山の方が反応してくれ、拍手やグットポーズ、同意の意思を伝えてくださる方もいました。そのような面からも世界中で平和、核廃絶が望まれているのだという事を感じる事ができました。もう一度渋谷でパレードをできたらいいなと感じました。

イスラエル大使館への抗議要請行動

パレードの後、有志が残り、イスラエル大使館前行動を行いました。大使館への道(公道)は閉じられていて、抗議行動はイスラエル大使館から非常に遠い場所という事となりました。各地の高校生、大学生が、イスラエルへの怒りを大使館へ向けぶつけました。Gazaへの侵攻はジェノサイドであると批判しました。イスラエルが停戦合意を一方的に破ってすぐでしたので、その事を批判したりしました。沖縄の高校生は、「知人に関わりのある土地で、ああいう事が起こっている時、心がざわつとする。言語化できないけれど、怒りとはまた違う気持ちです。

これほど長い期間激しい攻撃を続け相手を殲滅してしまおうという姿勢に、どんな感情が渦巻いているのか、自分たちと同サイド以外は非人間であるという雰囲気を感じる」などの感情が織り混ざり、言葉が出なかったと言われました。京都からは「イスラエル大使館の皆さん、そして、海を越え、野を越えた所にいるネタニヤフさんに伝えます。やっていることは、攻撃の報復に見せかけた民族浄化です。イスラエルのため、そして、ガザのため停戦を求めます」という内容で話しました。その後、コールを行いました。コールでは、イスラエルの言葉、そして日本語で行いました。最後に代表6人がイスラエル大使館の前まで行き、大使館の門へ抗議文をそっと投げ入れ、抗議要請行動を終わらしました。

 昨年(2025年)1月に京都の平和ゼミ再結成集会を行い、京都での平和ゼミの活動を再開させ、3月の東京での行動に全国の仲間とともに参りました。この後、東京での行動の報告集を作り、5・3憲法集会などに参加し、高校生の取り組みを報告しました。6月には伏見深草の戦跡巡りフィールドワークにも取り組みました。8月の広島で開催される「全国高校生平和集会」や原水禁の取り組みに参加する予定です。
 秋から平和ゼミとして本格的な仲間を組織し、高校生の平和学習・運動を展開していきます。皆様のご支援・ご協力をよろしく願います。

(京都平和ゼミ世話人 秋山吉則)

学習会や集会、研究会などのお知らせ

移転のお知らせ

京都教育センターは9月より、京都府教育会館3階に移転しました。
住所だけ変更し、連絡先等は変更ありません。引き続き、よろしくお願いします。



京都子どもネット学習会&総会のご案内

《講演》子どもの権利条例制定の意義と
子どもの権利相談室『なごもっか』のとりくみ
講師：間宮 静香さん（名古屋市子どもの権利擁護委員、

日弁連子どもの権利委員会副委員長、
子どもの権利条約推進PT座長）



《総会》この一年間の活動報告・これからの活動について

- ◆日時：10月25日（土）14:00～16:30
- ◆会場：京都教育文化センター301号室（京阪・神宮丸太町駅5番出口東へ5分）
- ◆連絡先：京都教育センター
(TEL&FAX 075-752-1081 Mail: kyoto-kyoiku@center.email.ne.jp)

第7回 いま、学校で愛は語れるのか

つながりをどうつくるか
—子どもどうし・教師どうし・子どもと教師—

- ◆日時：11月1日（土）13:30～16:30
- ◆会場：立命館大学朱雀キャンパス 308教室
（京都市中京区西ノ京朱雀町 | 京都市バス千本三条・朱雀立命館前）
Zoom 参加希望の方は山岡までご連絡ください。yamaokamasa@gmail.com
- ◆主催：京都教育センター対話型学習プロジェクト 075-752-1081

子どものためにも 先生のためにも 学校について考える
第55次 京都市教育研究集会

《講演》教職員の真の処遇改善について考える
—学校がどんな場所であってほしいか 希望を語ろう—
講演：高橋 哲さん（大阪大学准教授）
Zoom ID 239 109 4578 パスコード 9171



- ◆日時：全体会は11月15日（土）10:00～12:30
【分科会は11月9日（日）9:00～12:00】
- ◆会場：京都教育文化センター301号室（京阪・神宮丸太町駅5番出口東へ5分）
- ◆連絡先：京都市教職員組合 075-771-9171